

第2回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会	
日時	令和2年7月27日(月)14:00～16:00
開催場所	横浜みなとみらいホール レセプションルーム
出席者 (敬称略) (7名)	<p>本杉 省三 委員(劇場計画研究者(日本大学名誉教授))</p> <p>明石 達生 委員(東京都市大学都市生活学部教授)</p> <p>倉田 直道 委員(工学院大学名誉教授)</p> <p>立川 好治 委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役)</p> <p>水野谷 良子 委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)</p> <p>天沼 ひかる 委員(横須賀芸術劇場 副館長 公益財団法人横須賀芸術文化財団 業務部長)</p> <p>※横浜市新たな劇場整備検討委員会運営要綱第11条に基づく出席者</p> <p>山中 隆 委員(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長)</p> <p>※横浜市新たな劇場整備検討委員会運営要綱第11条に基づく出席者</p>
欠席者 (敬称略) (0名)	なし
開催形態	公開(傍聴人4名／報道3社)
議事	<p>(1)新たな劇場の施設概要の検討</p> <p>(2)その他</p>
資料	<p>議事次第</p> <p>資料1:委員名簿</p> <p>資料2:席次表</p> <p>資料3:令和2年度第2回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料</p>

議事内容

1 新たな劇場の施設概要の検討

2 その他

【本杉部会長】

- ・ まず、議題に入る前に、第1回基本計画検討部会の議事録について、委員の皆様へ配付させていただきます。承認いただきたいと思いますが、異議はございませんでしょうか。事前に配付していただいております。水野谷委員はもう間もなく到着されるということですので、到着後、終了する前に私から声をかけさせていただきます。

【委員】

(異議なし)

【本杉部会長】

- ・ なければ、これで議事録については、水野谷委員の同意を得れば確定とさせていただきますと思います。承認いただきました議事録に関しましては、今後、委員会のホームページで公開させていただきます。
- ・ それでは、第2回基本計画検討部会の議題に従って進めたいと思います。なお、質問、御意見については、後ほどまとめて時間を設けますので、そのときをお願いいたします。各委員から御発言いただく場合には、挙手をいただき、お手元にありますマイクロフォンを使って御発言いただきますようお願いいたします。なお、御発言の後はマイクの電源を必ず切っていただきますようお願いいたします。
- ・ それでは、資料に従いまして、事務局からの説明をお願いいたします。

【事務局】

(「資料3」P.14までの説明)

【山中委員】

(「資料3」P.15、16の説明)

- ・ 建設費のことを言うと、本体は245億円かかっています。別に駐車場があり、これを入れると全体で300億を超えるようなお金がかかっているところです。劇場概要のところ、大ホール、それから中ホール、小ホールと3つのホールを持っておりますけれども、大ホールではオペラ、それからバレエ、そしてコンサートもやっております。コンサートは次のページに書いてありますように、走行式の音響反射板があります。写真4

のところの、真正面に見えているのが音響反射板です。これが前に出てきて、両袖にある同じ色をした壁とドッキングをして、きっちりと音を反射するよう、囲むようになっております。

- 中ホールでは演劇とか歌舞伎、狂言などをやります。大ホールの方は残響が2秒ちょっとくらいで設計されていますが、中ホールの方は1秒ちょっとだったと思います。残響とか違いますので、全く別のものと考えています。小ホールでは、室内楽ですとか、貸し館でピアノの発表会にもよく使われているというところがございます。
- それから、リサール室ですが、これは主舞台と全く同じ大きさになっており、練習するときも全体の広さが分かるような配慮がされております。
- 写真を見ていただきますと、まず、エントランスロビーとなっておりますが、柱と床は大理石を使っており、2階部分になっております。山側から来ますと、エスカレーターで上へ上がってきまして、メインロビーに入って、正面の琵琶湖の方へいくという感じになっております。実は通り抜けができるようになっております。山側から劇場のロビーを通って琵琶湖へ通り抜けができるということで、公演のない日にも中に入ることができます。レストランとかカフェは開いておりますので、そこでお茶を飲みながら琵琶湖の景色を楽しむといったことができるようになっております。今では、レストラン独自で旅行会社と提携をしたりして、公演のないときでもお客様に多数来ていただいております。
- 写真2、大ホールのホワイエが写っております。下は絨毯を敷いており、ここも琵琶湖に面しております。オペラの幕間に、何回か休憩があると、だんだん夕暮れに向けて琵琶湖の景色が変わっていくというようなところを楽しむことができるようになっております。移ろいゆく琵琶湖を見ながらシャンパンでも飲むといった豪華な気分になれる場所がございます。
- それから写真3は、客席ですけれども、床は板張りになっております。最近のコロナ対策として、この劇場の大ホールの換気は24分間で全ての空気が入れ替わるという設計になっており、これは中ホール、小ホール共、全く同じ24分です。上から空気が入ってきて、座席の下が、多いところでは2席に1席で金網になっており、そこへ空気が吸い込まれて、下ががらんどろになっており、排気が行われるという構造になっています。最近はこの積極的にPRするようにしているところがございます。
- 次の改修のときに直そうと思っているのですが、写真をよく見ていただくと、座席が互

い違いになってないため、少し見えにくいです。真ん中ブロックは、座席は減りますけれども、次の改修時に互い違いになるように直したいと思っております。それと、少し傾斜が緩過ぎたという気もしており、大きい人が前に座りますと見えないというような苦情をよくいただきます。新しい劇場はバレエを中心という話も聞いておりますので、そういうことに気をつけていただく必要があるのではないかと思います。

- それと、私どもは、設計をする前に、職員数名は先に県職員として採用して、設計に対して意見が言えるようにしたところがございます。
- 今運営していて非常に困っているのが女子トイレの数でございます。休憩時間に行列ができ、非常に困っております。直したいのですけれども、面積などに手を入れるとなるとなかなか大変です。これも最初にしっかり考えておかれるのがいいかと思うところがございます。
- 余談ですが、結構和式も残っておりまして、何で和式にしたのかということを探ったことがあります。アンケートをして、当時は洋式の出はじめくらいだったのでしょうか、誰が座ったのか分からないところに座るのは嫌だという意見が多数だったので、和式もある程度残しましたというような回答でした。この先どうなるか考えて設計しなさいと言ったことがあるのですが、トイレは重要だと思います。劇場ですので、着物で来られるなど、本当におしゃれして来られますので、トイレの豪華さといいますか、しっかりと造られた方がいいのかと思います。
- それから、オーケストラピットの話が出てきます。この3月まで、「リング」4部作をやっていたのですが、やはりオーケストラピットが小さかったと感じております。ただ、当時は「リング」ができるほどの劇場になるとは思わなかったということで小さかったのですが、今、大きくしてくれと言われるのですけれども、造ってからではそんなことはなかなかできません。やはり最初に考えられることはやっておかないと、後から追加するというのはできませんから、余分なことになる可能性があるかもしれませんが、フルスペックといいますか、しっかりと対応できるようにしておいた方がいいと思います。
- それから、搬入口との関係です。一昨年、新国立劇場の「トスカ」をびわ湖ホールに持ってきたのですが、このとき、11トントラックが40数台来ました。うちの劇場は3台ぐらいは止められますので、大津インターに止め、そこから次々順繰りに入れたというようなことがございます。それから、うちは海外からのオペラ公演も多いのですが、引越し公演のときは神戸港から運んできます。横浜はもう本当にすばらしい立地なの

で羨ましいと思う次第です。港から劇場へのアクセスと申しますか、そこはやはりアジアへ持ってくるのなら横浜の劇場だという感じになるようにしていただけたらと思います。

- それから、本当に今困っているのが、滋賀県も横浜市も同じ地方公共団体ですけど、いわゆる減価償却の考え方がなくて、建てるだけ建てたらいいという感じです。これは国もそうです。建てたら老朽化はすぐ始まります。マンションの修繕積立金じゃないですけど、そういったものを最初から積んでもらわないと、すぐに修理しなければいけないケースというのがありますので。補正予算などは待ってられませんし、ある程度自由になる修繕積立金のようなものは常にあるというようにされた方が、結局安くつくと思います。大規模改修の説明を県にしても先に延ばされますし、そうすると改修費が膨らんでいくという、後手後手になりますので、その点は建てるだけではなく、その次の年からそういう修繕積立金といったものを持たれる必要があると思います。
- それと、びわ湖ホールは、琵琶湖の中の土を中で動かしているだけですが、そういう埋立地なので、今でもずっとどンドン水が出てくるので、ポンプで排水しているようなところでございます。
- それから、雨漏りがしたりして、ちょっと斬新なデザインだと、雨漏りとかするのかわというように思っているところでございます。
- 私から以上でございます。

【天沼委員】

(「資料3」P.17、18の説明)

- 私どもの劇場ですけども、まず立地といたしましては、非常に変わっておりまして、横須賀市の中心ではなく、京浜急行で言うと、快速は止まらず、各駅しか止まらない汐入駅という駅の前にあります。ただ、恐らく駅から近い劇場としては、日本国内の10の中に入るのではないかと思います。2分で劇場の中に入れるという、そういう立地ですが、劇場自体の建物が複合施設であり、劇場の隣にメルキュールホテル横須賀がくっついてありまして、それプラス、1階、2階が、最初は専門店街から始まり、今はオフィスも入っております。3階には貸し会議室を提供する施設が入っています。この土地は、もともと日本の海軍の集会所があったところが、2次大戦後、米軍に接収されまして、貸館クラブとして中に劇場を造って、いろんな兵隊の方たちにエンターテインメント

を提供していたという場所でした。それを国から横須賀市がもらい受けて、そしてその後にもまた劇場が建ったということで、EMクラブと言われていた時代には、もちろん日本人は中に入れないので、こっそり見ていた方もたくさんいらっしゃったと思います。世界有数のジャズのアーティストですとか、オペラ歌手の方もいらっしゃってましたし、バイオリニストだとメニューインのリサイタルとか、そういったものが実は横須賀で行われていたという、そういう場所でございます。その跡地にできたのがこの横須賀芸術劇場ですけれども、一番の特徴は、多目的ホールの運営の方針でありながら、様式だけはオペラハウスの仕様であるということです。

- 実は劇場の隣にあるどぶ板通りがあり、米軍の兵士がよく集まるバーとかが両側に並んでいますが、そのような通りの隣に、中がこのようなオペラハウスである劇場が建っているという非常にギャップが楽しいと、いつもお客様には言っていております。
- このオペラハウスというものが、26年経っておりますので、うまくそれが働いておりまして、オペラハウスの形と、それから舞台機構を造れば全てを受け入れることができるという方針の下に建てられたと聞いております。ですので、総合舞台芸術の規模が大きいものが、大は小を兼ねる的な考えだと思うのですけれども、それを基に建てられた結果、写真3にありますように、5階席までございまして、馬蹄形のバルコニーを積み上げた形での客席内になっております。
- ただし、やはり敷地が狭いので、写真1のエントランスロビーや写真2のホワイエ、この辺りについてはやはり十分なスペースがございません。1,800人のお客様を大劇場にお迎えするわけですけれども、待っていただくときには、ほとんどの方が中に待つところがないです。そこは、向かいに今、大きいショッピングセンターもございまして、皆さん分散して、道路を渡る、デッキを渡って劇場にすぐお越しいただくことができるので、そういった周囲のスペースを利用して運用は可能になっている次第です。
- また、写真4の舞台を御覧いただくと分かるのですけれども、両側に大臣柱というものがついており、非常にここで行われるそのパフォーマンス自体を、フレームとしてすごく美しく見せるような、こういう作りになっております。ただ、聞いたところによりますと、舞台両端に少し照明の数々が写っていると思うのですけれども、これは後づけでこのような設計になっておりまして、本来ですと、照明の部分は少し隠したかったものだそうです。なので、開館当時、この照明が熱によってカチカチ音が立てるものがパフ

オーマンズをすごく邪魔してしまったという、そういったことも事件として起こしてしまっただけでございまして、全て照明を取り替えたというような事態もございました。

- 18ページを御覧ください。この舞台機構についてですが、先ほど御説明いただきましたびわ湖ホールさんの舞台から、私どもの場合、奥舞台がないというものになりまして、主舞台の両脇に同じサイズの袖舞台を持っております。写真5にございますけれども、スライド式完全3面舞台ということで、3面のスライドを持っているわけですが、この奥に箱型に収まっているようなもの、これが音響反射板でございます。これが自動走行式で前に出てくる形で、シェルター式の音響反射板の環境をつくることになっております。ですので、コンサートホールとしての役目も果たしますし、そうでないものも果たすということで、全て多目的に行えるようにという設定がされているということでございます。
- オーケストラピットにつきましては大小のサイズを持っており、大きいものであれば、なんとかワーグナーのオペラのオケの編成は入るかというスペースまで持ってこれます。もちろんサイズを持っているのと、ピットを造らなくても済むという機構になっているのは、あくまでも、いろいろな公演のために使えるようにということで、そのような形式になっております。
- 写真6に搬入エレベーターと、それから写真7の搬入スペース、下に「奈落の使い方」があるのでございますけれども、ちょうど19ページにもございますが、私どもの方の劇場の舞台というのは、建物でいうと3階にございます。搬入は地上階でして、それをそのまま舞台に持っていくということができません。ですので、このスライド式3面舞台というのが大きな迫りになっており、1階まで下りてきているところに全て荷物を積み込んで、一気に舞台上に、舞台装置などを含めてそれを上げるということで、搬入搬出についての時間ですとかを省いています。
- ですので、迫りのシステムが劇場の命ということになるのですけれども、おかげさまで特に20数年間、問題なく動いています。ただ、こちらについてのメンテナンスについては非常に気をつけているところでございます。また、舞台上につきましては、バトンですとかそういったものも、うちは45本ですが、26年前は国内水準の一番をいくところの装置としていろいろなものが造られてきましたが、26年たった今、動力が例えば、今だったら必ず電動のものが、油圧方式であったり、バトンの稼働のものが油

圧だったりする以外に、エレベーターが油圧だったりするということも持っておりまして、そういった時代の変化に伴うテクノロジーへの対応ということが本当に劇場の大きなテーマです。

- 音響や照明など、アナログからのデジタル化といったものにどのように対応していくとか、それから、先ほど客席のこともございましたけれども、馬蹄形のバルコニーを持っておりまして、舞台に対して正面を向いている席はいいのですが、左右に寄れば寄るほど角度的に舞台が見えませんが、オペラハウスの場合、そこを、音楽を聴くために見えなくても売れる席というような理屈は立つのですけれども、多目的の場合はそうはいきませんので、私たちの場合は、見えない席を1,806席のうち112席持っており、そこは20数年間運営する中で、いろいろな方法でやってまいりましたので、現在はすごく定着しており、ほとんどクレームが来ることはございません。切符をもちろん安く売るということもありますし、人気アーティストでしたら、逆に席はあまり関係ないので公演が見ればいいという、そういう価値の下で運営できるということで、そのあたりは時間によって解決できているというようなことになっております。
- お客様周りのことと言えば、洗面所のことですとかそういったことは本当に共通の悩みですけれども、数が足りないプラス、今回、コロナのこともありまして、触れずに何かできることというのが、例えば、洗面所の水道が蛇口のままであったり、そういったものを本当に変えていきたいところがございます。触れないで何かできること、全部が電動でそういったことになるのですが、なので、長い時間のように短い時間であり、いろいろなことが技術革新とともに変わってきてしまっているところを、どうやって対応していったら、使える劇場としていくのかというのが、非常に財政的なこともありますし、難しい課題として今抱えていることがございます。
- あと、複合施設という意味では、建物が全部くっついて建っているのですが、建築的なところでは、何かしら解決方法があるのかもしれませんが、地権者の方がいらっしゃったので、居住区域が、劇場の建物の中に入っています。そうすると、その辺の配管が全部劇場側にあたり、そういったかなり複雑な状況で造られておりまして、今のように建ちますと、配管についても大きい問題もありますし、雨漏り含めて、そういったことが起こったときに、それぞれまとまって、その修繕をしていくということ自体も非常に難しい状況になってきています。よく建築のことは分からないのですけれども、やはり劇場を建てるのだったら、絶対単館というか、それだけで建てる方がいいのではないかと、し

みじみ感じているところでございます。

- ですので、私どもの方はオペラハウスの内観の雰囲気は助けとなっており、実はオペラが基本的に公演を行う中では、いつも成績がよく、失敗したことがありません。年に例えば、本数は今は1、2回になっておりますけれども、必ずお客様が来ていただけるという環境も整っておりますし、取組として、ドイツの財団と共催で世界オペラ歌唱コンクール、新しいこういうのを今、20年させていただいています。そういったことで、世界へ出ていけるオペラ歌手の登竜門ということで、日本人の歌手からアジアの歌手の方を含め、海外へ道を開くということもできており、そのあたりのサイクルが今うまく回っているというような状況もでございます。以上です。

【事務局】

(「資料3」P.19以降の説明)

【本杉部会長】

- はい、ありがとうございます。それでは、ちょっと長くなりましたけれども、第1章に戻りまして、「ポストコロナと新たな劇場整備のあり方」、それから、第2章は「新たな劇場の取組方針」について御意見、御質問等があれば、委員の方からお願いいたします。発言の際にはマイクを使ってください。いかがでしょうか。大変盛りだくさんだったので。なければ、時間の都合もありますから、次の方に移ってもいいと思いますけれども。
- 明石委員、お願いします。

【明石委員】

- 今日は専門の方が多いので、先にお話ししないと言うことができなくなってしまいました。今、1章、2章からというお話だったのですが、後ろの方から議論した方が、固めていった方が分かりやすいと思ったので、そういう感じで。
- 今、事務局からの御説明と、この資料を見ていった感じから、要は、概算事業費を早くにはじけるような、そういう外的な条件を早くに固めていきたいということかと思われました。それは、こういう話が具体化してくると、お金は幾らかかるのかと言う人が出てくるのは十分容易に想像できますし、それから、役所は予算の年間の流れの中で動いていますから、年度内には次の予算ということを考えながら話していかなければいけ

ないので、十分うなずけるところだと思います。

- それで見ていきますと、後ろの方のページから見ていくと、まず、場所のことが32ページのところで出てきます。街区として、60・61街区ということですが、これはもうここしかないです。その理由は、以前からの復習になりますけれども、こういう劇場というのは平面形状が非常に大きくなってしまいますから、普通にやっていると、1万㎡はいかないにしても、そのぐらいの規模にはなるわけです。そして、周りにある程度いろいろ余裕も考えていくと、2万3,000㎡あるところはここしか残っていませんので、もうここだろうということを想定して話を進めていくしかないのではないかと。まず、後ろの5章については思います。
- それから、4章のところで見ていきますと、これも周りのことですが、前回、私がお話をさせていただいて、それが十分反映されているので、基本満足ですが、2点だけ細かいことを申します。右側の絵があって、断面もここに書いてくださったので、それが大事だと思いましたから非常によいと思うのですが、右側のアクセスの絵は、これはこういうことだろうと思うのですが、前回、私はみなとみらいは広いから、ゾーンによって、音楽ホールのあるところと、それから美術館のあるところと、それからバレエ劇場のあるところと、それぞれ役割を分けたらどうかということをお願いしました。機能的なつながりはもちろん当然ですけど、空間的にもそれを考えるとすると、美術館前のグランモール広場との関係についても、ここに点線でも入れておいた方がよいと思います。何らかの形で空間的につながりのある形のイベントをしたり、何かあるときには、確かにグランモールは、軸線上にこの敷地はないので、グランモールからは見えないのですが、端に行くとも開けてきます。それで公園もありますから、そういうことで考えていくと、やはりそこは、グランモールの端辺りのデザインは少し考えのうちに入ってもいいのかなと思います。
- もう一つ、前からどうしても気になるのですが、「にぎわいづくり」という言葉を使っています。それはそれでよいと思うのですが、基本ここは、にぎわいは量ではなくて質だと思います。にぎわいというと、たくさんの人が来て、量のことを言っているようですが、やはりバレエ・オペラの劇場というのは全然風格の違う種類のことでありますし、これが開かれるときのお客さんも違います。そういうこと言えば、経済効果で言えば客単価は高いのかもしれませんが、にぎわいでいいのですが、たくさんの人が来るというような雰囲気ではなくて、ちゃんと質のことを考えたような表現

を今後取っていけるといいかと思います。

- 第4章はそんなものですが、その前の、28ページになりますが。単館と複合利用のところですけど、これは何でこうなったかと思いながら見ていました。私は都市計画が専門なので、すごく細かいことを申しますけれども、この敷地というのは、確か600%の容積率が指定されています。けれども、同時に高さ制限は100メートルということになっています。それはどうしてかという、みなとみらいの全体が海に向かって開かれていくということで造られていて、高さについても、ここのクイーンズモールのところが一番分かりやすいですが、陸側が高く海側がだんだん低くなって行って、それは記念撮影のときみたいに、どの建物も海が見えるというような形で造られています。ただ、高島の方へ少し行くと、どうしてもタワーマンションが増えてきましたから、スリムではありますが、少し高さの関係が違うのかもしれないのですが、600%というのは相当な容積率です。ただ、600%で100メートルというのにした根拠みたいなのは、例えば事務所を建てるとしたときに、事務所階高5メートルで、それで100メートルということですから20階、20階で600%という、大体建ぺい率が30%となります。空中の建ぺい率は30%ですから、相当建て詰まった形でのマッシブな事務所になるのですが、そこまではあるだろうぐらいな感じなわけです。そこへ、この複合館をやったとすると、上下というのは非常に難しいです。建物自体、ホールがあって、上に造るのもそんなにたくさんはできない、要するに、柱が出てきてしまっはまずいわけです。さらに、地下の方は奈落があるなど、かなりパーティカルに見ていくと、平面よりもよほど複雑というか、難しいところがあると思います。
- それで、隣に建てればということについては、確かに横須賀芸術劇場は隣にホテルが建っていたりするのですけれども、少なくとも容積率を飛ばして、そこでお金を稼ぐという発想は後にしてほしいと。まずは、お金のことはあるだろうけれども、例えば、横浜美術館が今、あそこに建っているのが非常に低層で建っていますけれども、あれを建てたときというのは、やっぱり文化の軸をつくるということを考えていて、そこでお金を稼ごうという発想ではなく造ってきたわけです。今回も文化のためのもの、その延長で本格的なものを造ろうということですから、その計画の上で、少し余った土地があったり、いくらかの容積を飛ばせる場所があったとすれば、もう周りは全部建物のところが決まっているので、ほぼないのですが、そういうことはあってもいいのかもしれませんが、容積率が余っているからそこで財源を生み出しましょうというところか

ら入ると、それは違ふだろうと思うところがあります。ここはもう少しバランスを取った書き方をしてほしいと感じました。

- そこが、20ページのところですけれど、あとはどちらかという、先生方の世界になっていきますが、22ページでしょうか。概算事業費の算定の考え方というのがあります。ここが一つ大事なところだと思うのですけれど、ここでア、イ、ウと書いてあるところは、私が見る限りにおいては、基本こういう考え方でいくしかないだろうとは思いますが、事務所やマンションとは違いますから、床面積で算定できるものでは本来はないわけですが、こういう考え方をとるしかないだろうと思います。
- ただ、少しつけ加えると、先ほども、山中館長からメンテナンスのお話がありましたが、そのメンテナンスの部分というのはすごく大事だと思うのです。こういうホールみたいなのは、後でお金がいろいろとかかる部分が出てきます。そうすると、これ自体は、例えばですけど、メンテナンスフリーというのがあるのですが、それは、建物によっては、だんだん古くなるとぼろくなっていくというので、ちゃんと磨き見直さなきゃいけないというようなものもありますし、今、ちょうど横浜美術館はずっと囲いで囲まれていますけれども、逆に、場合によっては、エイジングとって、古くなってコケむしていけば、なおさら風格が出るような、そういうのもあるわけです。
- それから、特に大事なのは設備系統だと思うのですけれども、古くなったりしたときに、機械とか設備とかがうまく取り替えられるというところなどが、それなりに工夫されていると随分違ってくると思うのです。ただ、そういうことを入れると、最初の工事費については若干上乘せにはどうしてもなるわけです。なるのだけれども、それはマンションの長期修繕計画じゃないですけれども、そういう流れを考えた中で、やはり事業費として入れておいた方がいいということがあれば、入れた方がいいと思うのです。ということで、ここで申し上げたかったのは、後のメンテナンスコストを減らすというような観点も入った上で説明した方が、最初のを造るときに少しお金をかけてでも、いいものを造るというところの根拠になるのかと思いました。
- もう一つ、この概算事業費のところと言うと、地下工事です。例えば、横須賀芸術劇場と新国立を断面で比較していたところがあります。19ページです。そして、横須賀芸術劇場の方は奈落が地上にあります。地下の工事というのは、たくさん土を取って出していかなければならないなどいろんなことがあるので、すごくお金がかかります。それを考えていくと、断面構成でもって、なるべく地下工事が減る方向にあった方がいいのだ

ろうとも思いますので、そうしたあたりも考えていくときの視点として入っていくことが必要かと思います。

- さっき、駐車場の話が出ましたが、駐車場をどこに造ってもよさそうな気がするのですが、地下であるとか囲まれたところに造っていくと、意外とメンテナンスコストがかかります。空調であるとかあるいは光熱のようなところですか。そういうのも、確かに駐車場はお金を取れるので、大丈夫ですという場合もあるのですが、少し考えておかなければいけないところかとは思いますが。ただ、みなとみらいは駐車場を隠すことになっていたかもしれないので、それは守った方がいいだろうとは思いますが。
- あとは、ポストコロナのところでは、私はあまり申し上げられることはないのですが、この中でデジタル芸術、デジタル技術みたいなものの実験ということが書かれていました。この間、新国立を見せてもらったときには、プロジェクションマッピングみたいなものができるのかと聞いたら、後ろの映像のところからやったりしている。立川先生に、何トンもするものを上につり下げるということを言われましたが、だんだん映像技術が発達してくると、映像でやれるところはなるべくそういうものでという風になるようにも思います。さらに言うと、今は無理ですが、ホログラムみたいなものもあります。そうすると、ここでやったものを別な劇場でホログラムで放映する、あるいは、ヨーロッパで行われている舞台を横浜で見ることができるといったようなことも起こってくるのだらうと思うのです。そういったことは今はできるわけではないのですが、技術が革新されたら無骨な機械が出てくるのではなくて、上手に対応できるように考える視点も必要かと思います。これは言いつ放しで中身があるわけではないのですが。すみません、長くなりました。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。順番どおりではなく、逆に後ろからという明石委員の発言がありました。今の内容を振り返りますと、候補地について、32ページから36ページぐらいにかけての話でしたけれども、この60・61街区の問題というのが35ページの下に、予算審議、議会から指摘を受けたということですが、このことは、ほかの委員の皆さん、どうでしょうか。ここで私たちが深く議論するというよりも、市のほうで主導的に検討していただいて、これについては進めていただくと。

【明石委員】

- ・ 我々としては、スペックから考えると、ここしかないだろうというのを結論にして進めていただくのがいいのではないかと思います。

【本杉部会長】

- ・ これは、内容については昨年度の委員会でまとめたことですので、ここで云々ということではないと思いますけれども、具体的な手法については、市の方で今後、主導的に検討していただくというのがいいのではないかと思います。よろしいでしょうか。
- ・ それから、逆に戻ってきまして、にぎわいのまちづくりの話があったのと、それから、整備手法、30、31ページ、それから28、29ページの話がありました。これらを含めて御意見あれば、お願いします。

【倉田委員】

- ・ 私は、明石委員は後ろからやりましたが、前からお話しさせていただければと思います。不幸なことですけど、コロナ禍という状況の中で劇場のこれからのあり方を検討することになったというのは、よかったのではないかと考えています。特に、今日の検討資料の中に市民生活を支える社会的基盤としての取組方針とありますけれども、この辺の考え方は、今回の施設整備を市民に理解していただくためにはすごく大事なところではないかと考えています。
- ・ 特にポストコロナ社会の市民生活がどうなってくるのか。特に市民の新たな価値観やライフスタイルが今後定着するというか、新たなライフスタイルとか生活様式に移行していくということだろうと思います。そういう中で、横浜に、こういった施設ができることは非常に意味のあることでもありますし、それがより身近な施設になればなるほど、生活の中で、意味のある施設になってくるのではないかと考えています。そういう意味で、この施設を造ることの意義はあらためて、コロナというものを経験する中で確認できるのではないかと考えています。
- ・ それと、先ほども明石委員の方からお話がありましたけれども、これからの時代における劇場のあり方ということにもつながるかもしれませんが、今回、コロナ禍の中で、世界中のいろんな劇場が閉められているというか、活動を停止しているという状況で、どんなことをしているのかということ少し興味を持って見てみますと、やはり幾

つかの著名な劇場は、それまでの上演されたものを映像で提供するという活動を積極的にやっているということが分かりました。

- ただ、それはあくまでも上演したものの記録したものを映像で流しているということではあるのですけれども、それを見ていると、劇場で見るのとは違う発見があるのも確かです。今回も出ていますけれども、新たなデジタル革命への対応というのは、先ほどお話にあった、映像と一緒に演じるというだけではなくて、それを記録するといひますか、演じられているものを映像化するというだけでも、見る位置が、視点が違っていると、やはりいろいろ見え方も変わってくるわけです。
- 例えば、最近、プロ野球などでもあると思いますけれども、普通の観客だと見る事ができない視点からゲームを見るというようなことがあるように、特にバレエなんかの場合は、非常にクローズアップしたところで見ると、とにかく信じられないような発見もあるわけです。そういった意味で、直接生の舞台を見るのとは違う形での楽しみ方というのが新たに生まれるのではないかと思います。今回の新しい劇場では、そういった新たなデジタル技術というものを活用した演出もそうですけれども、記録の仕方、映像そのものも、もう一つの作品というような形になるだろうと思うので、それを発信していくことも可能になるだろうと思います。
- 特に今回のような状況ですと直接劇場を訪問できないわけですから、そういう人たちにとってみると非常に大事な機会にもなるわけです。今回、横浜に仮にこれができる場合に、映像であれば、それは空間を越えて、いろいろな地域でそれを見ることができるようになりますから、それが一つのきっかけになって、じゃあ直接行くというきっかけにもなるわけですので、そういう意味では、これは非常に大事な視点ではないかと思っています。
- ただ一方で、AI、デジタル技術というようなものは日進月歩なので、今の技術が、例えば10年後どうかという恐らく陳腐化してしまうだろうという気はしますので、空調とかそういったものの設備系とは別に、将来の技術革新に対応できるような形のフレキシビリティを持っておくことが大事ではないかと思っています。
- あと、施設の内容に関してですが、市民生活の社会的インフラというような言い方をされているのですけれども、そのときに、劇場そのものもそうなのですが、今回の施設づくりの中において、にぎわい施設というのは、明石委員が指摘されるように、ただ人が大量に集まっていればいいというようなイメージがあるので、それとは少し違うだろう

うという気がします。そういう意味で言うと、交流とか、そういう概念の方がふさわしいかと思います。今回の劇場について、ホールそのものについては、新しい技術を駆使した形で素晴らしいものができるだろうと思いますけれども、一方で、先ほど少し話題になったホワイエやエントランスロビーを含む、にぎわい機能というところは、新しい考え方が導入されてもいいのではないかと考えています。

- ・ 現在想定されている立地は、造り方によってその施設が生きてくるという気もします。今回の立地はここしかないだろうという思いの一つとしては、道路を挟んでですけど、前に公園が、高島中央公園もありますので、劇場の前に大きなオープンスペースがあるというのは非常に大きな要素ではないかと思っています。そういう意味で、ホワイエやエントランスロビー、にぎわい施設というのは少しオープンなつくりにして、公園や周辺の環境とうまくつながったしつらえなり、そういう造り方ができると、この施設がより、この立地にふさわしいものになってくるのではないかと思いました。
- ・ あと、客席に関して言うと、オペラやバレエは上演時間が長かったりするので、特に高齢者からすると、少しゆとりのある座り心地のいいシーティングが必要かと思います。とにかくオペラやバレエを観ていて、座り心地が悪くて、そればかりが気になってしまうという状況は不幸なことなので、特に前席との間隔も含めて気持ちよく座れる、そんなシーティングが大事ではないかと思います。その分、劇場のスペースが少し大きくなるかもしれませんが、そういったゆとりはぜひ欲しいという気はしました。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。周りの話について多く御意見いただきましたけれども、今日の中心的なところは第3章の部分だと思います。ページで言うと11ページから整備手法、29ページぐらいまで、そこの話を皆さんから御意見をいただきたいと思います。一部、明石委員から、22ページの概算整備費の出し方、考え方については、ア、イ、ウ、エも含め、こういう考え方でいいのだろうというお話がありましたけれども、そのほかについての御意見もいただければと思います。大分過ぎてきたので、事務局で何か補足的なことがあればお願いいたします。

【事務局】

- ・ ありがとうございます。今、明石委員と倉田委員の方からの御意見の中で、少しだけう

ち事務局説明が足りなかった点があるので補足をさせていただきたいと思います。9ページの技術革新に伴う対応というところで、今回の技術革新を劇場サイドとしてどう生かしていくのかということについて、幾つかの軸があるのですが、当然、設備面や配信の技術があるのですが、特に9ページの3で触れたのは、どちらかという、アーティストと映像技術が一緒になって、例えば、光の技術を使ってアーティストが創造力を高めていくなど、今まではアーティストをより持ち上げるのが映像の仕事だったのですが、アーティスト側も映像の方にしっかり向き合い、両方で伸びていく。それが、どんどん映像の技術が伴って創造力が高まっていくような、そういう実証実験を日々やっている劇場にならないかと。そこは当然、ハード面で何が毎回変えられるのか、いろいろあると思うのですが、そこがまさに今の技術に求められるところだと思っております。そこはある意味で、違う意味の専門家の力を借りたいという意味で、あえて「実証実験」という言葉をここで入れさせていただいております。

- ・ あと、もう一つ補足をさせていただきたいのですが、これは私どもの説明が至らなかったこととおわび申し上げなければいけないのですが、30ページのところでございます。ここのにぎわいの関係です。これは、「観光・エンターテインメントゾーン」という、このゾーンのエリアをどう考えるのかという、そのにぎわいをどう考えるのかということです。劇場のにぎわいと観光・エンターテインメントゾーンのにぎわいと、両方が少し混乱をする説明になっておりました。実を言うと、横浜にとっても、この観光・エンターテインメントゾーンというのは、まちづくり全体においてはかなり大切な要素になっております。隣にはKアリーナというところで2万人以上のアリーナができ、その裏側の方には、これはまだ最終的にどうなるか分かりませんが、コンペではホテル、あるいは水族館というような提案も出ております。そういった多様な施設ができてくる中のまちづくりとしてどう考えていくのかという意味で書かせていただいております。その中身イコール劇場と一致するものもあるかもしれませんが、やはり劇場とそれぞれが役割分担をしながら、まちづくりを盛り上げていくということもあるかということで、30ページは全体という意味で書かせていただいております。まだまだここは練らなければいけないところはあるかと思いますが、そこは説明が足りなかったので補足をさせていただきます。以上です。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。その補足も含めまして、御意見等あればと思います。第3章の「基本計画において重視すべき視点」、2に書いてあるところですけども、ここに(1)から(2)、(3)、(4)、(5)とあります。それから、他の事例の説明があつて、その中にびわ湖ホールと横須賀芸術劇場の話があり、幾つかの話をそれぞれからいただきました。サイトラインの問題ですかトイレの問題、それからオーケストラピット、搬入口、減価償却の考え方等がありましたけれども、そういった話です。それから、舞台機構とかもあつて、求められる施設機能という内容があつて、概算整備費の考え方、これは最終的にここで検討しなければならない問題ですけども、その中に、また幾つか、検討の1、舞台・舞台設備、2が劇場の基準とした階高の設定、3がバックヤード、4が客席。客席については少し御意見もありました。そして検討5として、ロビーとホワイエというような話がありました。いかがでしょうか。最初の重視すべき点の中の(1)から(5)については、ここに書かれていますけれども、何か御意見とかありますでしょうか。

【立川委員】

- ・ 第1回の部会するときにも、少し話しましたがけれども、どのような劇場を造るかということは、どのように運用するか、その劇場をどう使うかという視点から本来スタートすべきものであると申し上げました。それで、このように計画、第2章、第3章でどのような劇場にしたいかというような指針というものが取組方針として出ているということで、このように運用するのであれば、例えば、劇場の外形的なサイズ、それから客席の数、それから必要な施設というのは、ある部分、自動的に決まってくる部分もあると、私は思います。ですから、例えば、バレエ中心でオペラもやり、ほかの公演もするという、それを効率的に組み合わせて公演をしていくために、どういうものがよいかということ、ある程度、今日の資料を見ると、こういう風にすべきであろう、こういう風にするのが多分効率的であろうということが、おのずと出てくる部分があると思うのです。その1つが、客席の数、それから舞台の裏側、舞台面及び舞台の袖、舞台奥、それから搬入口も含めた面積と、それからその機構のようなもの、それから、ロビー、ホワイエ、その他のトイレも含めてですけども、お客様が使う部分の施設の考え方。これは、具体的に数字を今、こういうものがいいと言うのがいいかどうか分かりませんけれ

ども、ある部分は自動的にというか、こういう運用をするのであれば、こういう施設がこれだけ要するというのは、ある部分出ていると思います。

- 先ほど、単館にするか、その他の複合施設の中に劇場を考えるかということで言うと、私の考え方で言うと、劇場単館の方が、様々な劇場を使ってきた経験から言うと使いやすいです。文化会館ですとか、びわ湖ホールとか兵庫の芸術劇場など、比較的空間的に自由度があって使いやすい劇場というのは、単館施設として建てられた劇場が多いです。今日、横須賀のホールの副館長さんも見えていますけれども、具体的に言うと、舞台面が3階にあるというのは、お客様の駅からアクセスするのはいいのですけれども、機材の搬入ですとか搬出、そのときには、ある程度制約があります。要するに、先ほど御説明がありましたけれども、スライディングの迫りを使って搬入しているときには舞台面は稼働できません。そういうようなデメリットもあるということで、どういう施設が使いやすいかという結論は、私としては単館で考えられるのがいいのではないかと考えています。
- 客席の数ですとか、舞台面を含めて何面分ぐらいの面積が望ましいかということで言うと、舞台面で言うと、新国立劇場の4面プラス組立て場、搬入口のスペースという、4面プラス α というサイズが、このような運用をするには多分必要なのではないかと思えます。あとは、ほかの劇場とのネットワークということで言っても、例えば、新国立劇場で造られたプロダクションそのものを持ってくるとすると、新国立劇場の舞台面のサイズとか間口とかそういうものを、それに匹敵する、ほぼそれと同等の面積を用意しておかないと多分うまくいかないです。そういうことを考えると、舞台面のサイズということで言うと、新国立劇場のサイズと舞台の面数というのは大きな一つの指針になるのではないかと考えています。
- それから、映像の配信のこと、ポストコロナのことでいろいろ出ていますけれども、我々、現場に関わっている者としては、例えば、過去のアーカイブのようなものをネット上に上げて、それを配信するというのは比較的簡単にできるのですが、それが収益化されない、収益化されないと、なかなかそれが回っていかない、そのことに対する著作権とかロイヤリティーとかの問題をどう考え、配信された映像に視聴者がどのようにそれに課金するかというのがなかなかうまくいかないです。ですから、こういうことを行っているという宣伝というか、そういうことには、映像配信というのは非常に有効だと思いますけれども、ビジネスとして配信したものが収益になるというのはなかなか

か難しいです。その辺が今後の課題ではないかと私は考えています。

- ・ あとは、運用の仕方、初期費用、それとメンテナンスとか修繕費とかということは、今の段階で想定するのはなかなか難しいと思うのですが、ただし、それが劇場をどのように運営して、どのように劇場の実稼働率を上げていくかということを、深く考える必要があると私は思っています。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。水野谷委員、お願いします。

【水野谷委員】

- ・ 25ページの「劇場の基準とした階層の設定」というところですが、私は、お客様目線について少しお知らせしたいと思っております。
- ・ まず、劇場のある場所ですが、この中にもありますように、歩行者動線の一体感というようなことが書かれてありますが、まさに、ダイレクトに行けるというようにお客様に実感していただくということが大事だと思います。これまで幾つか新しいホールのオープンに立ち会ってきましたが、意外と場所が分かりにくいというような、そういうお声というのは少なくないです。アクセスもそうなのでしょうけれども、駅を出て、そして、その建物なり目印が見えるという、そういうものがないと、なかなかたどり着いていただけないというのが現実です。当事者としては慣れ親しんでしまっているため、これで大丈夫と思ってしまうのではなかろうかと思えます。そのあたりの十分な検討が必要で、初めて行く人が、これは行きやすい場所だと思ってもらえるような動線を十分に考えていただきたいと思えます。
- ・ それから、27ページのエントランスロビー、ホワイエの部分についてですが、前回の話でも、お客様はやはりライブを体験して、そして感動を得ているのだということを、我々ずっと、長年実感してまいりました。それは必ずしも舞台から伝わる感動だけではなくて、入った瞬間から、言ってみれば、先ほど申し上げましたように、駅からどうやってアプローチして、そしてロビーの中に入って、そして自分の目に何が飛び込んでくるか、こういうことが非常にお客様にとっては重要です。
- ・ こちらに文化会館の写真がありますがけれども、私の所見としては、上野の文化会館のロビーはとてもよく考えられていると思えます。まず、場外からフラットに入れるという

点。それから、フラットのメインロビーから段差の少ない階段で上と下に分かれてスペースがあるということ。これは、空間がより広く感じられて、開放感のようなものを感じます。あともう一つは、左右に分かれて動線が確保されているということ。これも、お客様がどのように動くかということは、設計の段階で十分お考えになっていただいているだろうとは思いますが、実際オープンすると、こういう風になってしまうのねという現状があります。なので、動線が左右対称に分かれるというのは、頭の中にイメージしやすく、そして、中に入ったときに安心感があるということが1つあります。

- それから、あともう一つ、上野の非常にすばらしいポイントとしては、周囲が緑に囲まれているということで、大勢が集まってもストレスがないです。劇場に集まってこられるお客様の求めるものというのは非日常、これを味わいに来られるわけです。ですので、そこで何かストレスがあるとなると、やはり非常につながりして帰るということになりますので、ぜひその辺のストーリーというか、入ってから帰るまでのストーリーが非日常で、それが感動につながる、そういったものにしていきたいと思います。
- 運用の中でうまくいかない点として挙げられるのはクロークです。これは非常に細かい話になりますが、クロークの設計については、ぜひよく議論していただきたいと思います。私どもも何かがあれば具体的に示すことができると思いますが、クロークの位置などは、お客様の動線とどういう風に関わってくるかということに、とても関係してきます。劇場ロビーの動線は大きく3つありまして、トイレの動線、それからバーコーナーの動線、それとクローク、この3つがうまく分かれて交通整理ができるような設計になっていると非常に使いやすい、そしてお客様もストレスがないです。劇場は、始まりは30分かけて、1時間の場合もありますけれども、皆さん入場してくるわけで、ぞろぞろと少しずつ入ってくるわけです。最後、ピークはありますけれども。しかし、終わりは10分ぐらいで一斉に退館していきます。この10分間で混雑だったりそのストレスでもって、せっかく感動したその余韻が全くなくなってしまうということになりかねませんので、そこら辺を十分に考えていくべきかと思います。
- それから、この文章の中にもありますが、エントランスのスペースについて、最近は大いものがあまりないというようなことが書かれていますが、やはりこのエリアをどういう風に考えるかというのは重要なポイントのような気がします。今までも、いろんな委員の先生方からお声がありましたけれども、フリースペースをどういう風に造るかというのが1つポイントになるような気がするのです。公演をしているときとしてい

ないとき、そのしていないときは、ここまではフリースペースでできる、公演が始まったときには、この辺から有料エリアにしましょうというような、そういう臨機応変なオペレーションができる、そんなことがあるとすてきなホールになると思います。以上です。

【本杉部会長】

- ありがとうございます。実際の設計ではないので、話しかできないのですけれども、分かりやすい動線計画、それは確かに大事なことですし、無料、有料ゾーンの考え方もこれからのことを考えると、より多くの人たちに親しんでもらう場としては大事な計画の肝の一つではないかと思います。
- 残り少なくなってきましたが、私の方でも少しお話しさせていただきたいと思います。皆さん、一通り言ったので、先ほどの第3章の2の「基本計画において重視すべき視点」については、具体的ここに書かれていることで、皆さん、あまりほかのポイントはない、主にこれでよろしいのではないかという話だと思います。
- 私として少しつけ加えますと、特に（1）のトップレベルの日常的公演ということで、これをどういう風に考えるか。先ほど、立川委員からも話がありましたけれども、1団体が、一般的には、日本の場合だと1公演をやっているのが普通です。海外から来たものと1団体が2作品、複数公演とか、3作品というものも少なくはないかもしれませんが、複数公演をするというパターンを考えておくかどうか、それから、逆に、あまりやられてない複数団体の複数公演というのを考えるかどうかによって、おそらく舞台とか、舞台以外のスペースも含めたところの計画というのは変わってくると思います。それにしても、基本となるのは、先ほど立川委員から話があったように、ここで言うと、23ページのところの舞台の事例のところ、多面舞台の構成というのがありました。後ろの26ページのところにも平面図がありますが、こういったような大きさ、広がりのある舞台空間が必要だろうということについては、皆さん、ほぼ合意されているのではないかとお見受けしました。
- それから、（2）では、2つ目のポチの右側の「新作・新演目などの製作ができる」、これはいいことだと思うのですけれども、この「製作」の「製」の字が違うようなので訂正していただいた方がいいと思います。練習ができるスタジオ、リハーサル室というのはとても重要になりますので、これについても工夫して考えられるのはいいと思いま

すし、5のスマート劇場というのは、まだ詳しくはお話していませんが、皆さん、ぼんやりとかもしれませんが、いろいろな今後の技術革新に伴うことが期待できるのではないかという話が幾つかありました。ただ、それは立川委員の話だと、収益になっていかなければいけない。ベルリンフィルがデジタル配信を行っていて、これも正しいか分かりませんが、日本の視聴者はドイツに次いで2番目に多いと聞いています。正確じゃないので調べていただかないと分かりませんが、そのくらい日本の方たちは聴いているらしいです。ですから、決して収益につながらないという話ではないと思いますので、これについても検討していったらと思います。

- その後の「求められる施設機能」のところでは、大まかな構成のイメージが21ページにあります。これについてはまだ御意見はいただけていませんけれども、その後の22ページのところについては、明石委員から、ア、イ、ウという考えでいいのではないかという話で、これもほかの方もお話しいただきませんでしたけれども、概ねこれですとすることでの考えではないかと理解いたしました。
- 検討の内容で、舞台及び舞台設備のところは立川委員の方で話がありました。それから検討2のところでは、水野谷委員からも話がありました。この言葉がちょっと分かりにくいので、「劇場の基準とした階高の設定」というのは、これは多分、劇場の基準となる舞台レベルの設定という意味かと私は理解しました。階高というのは建物の、床と床の間になりますので、そうではなく、舞台レベルをどのレベルに設けるか。これについては立川委員からも搬入レベルと舞台レベルがそろっていた方がいい、使いやすいという話があり、これは一般的にも言われているところです。ただ、そうではない基準も世界にはいっぱいあるので、それはいろんな歴史的な経緯とか、あるいは、まちづくりの視点から変わってくるとは思いますが、基本的には舞台レベルと搬入レベルがそろっていた方が使いやすいという話は、皆さんも基本的な合意かと思えます。
- それから、バックヤードについてです。名前が、26ページで言っているバックヤードと、21ページで言っているバックヤードが少し違うので、どこかでもう一度、統一的に示していく必要があるかと思えます。いずれにしても、舞台及びその裏側のゾーン、その機能というものをどう捉えるのか、その広がりやをどうつくり出していくのかというのは、大きく面積に関わりますので、つまり、面積に関わるということはコストに関わりますので、検討していく必要があります。
- それから、検討4の客席のことですが、2,500席を確保すると、立ち見席も検討すると

いうことになっています。その2番目のポツでは、ここに書いてあることは、設計する側にはなかなか厳しい内容で、主舞台は全域から見えるという、それで2,500席というのは、遠ければいくらでもできるのですが、遠くなくて造りなさい、それから、全ての客席からオーケストラピットの指揮者が見えるようにしなさいとなると、なかなか厳しいです。当然、ある程度見えにくい席が出てくると、先ほどの話があったように、それを理解してもらうには時間が必要になってきます。全くそうじゃない劇場が世界中どこにもないということはないので、物理的な問題ですので、見えにくい席が出てしまうのはやむを得ないものということもあります。

- ・ 実際、ヨーロッパのちょっと古い劇場に行きますと、全く舞台が見えない席もあります。聴く席という風に言って、見える席とは書いてないので、安いには安いです。私も座ったことがありますけれども、立ち見席の後ろに座る席があるという。私も妻と行って、妻は椅子があつてうれしいとか言っていたのですが、立ち見席で目の前に人が立っていますから絶対見えることはないのです。ただ、譜面台を置けるような場所があつて、譜面灯のような明かりもついていて、音楽の好きな方たちはそこに譜面を持ってきて、譜面を見ながら楽しむという。そこにもしっかりと黒いスーツを着てチケットを買って来ている人がいるぐらいです。ですから、あながちそういう席も悪くはない。やはりその場所にいるということの楽しみはありますので。
- ・ それから、検討5というのは、エントランスロビー・ホワイエの話がありました。これは、先ほど水野谷委員の方からもありましたけれども、大変重要なエリアですので、これもさらに考えていくということになると思います。
- ・ 大まかに言うと、この辺の話というのは核心になるので、どんな規模が、どのくらい必要かということが、また今後、我々の方で議論していくことになると思いますけれども、これについてまだ言い足りなかったということがあればお話しいただければと思います。
- ・ 先ほどの天沼委員と山中委員の方からお話がありましたように、それぞれ実際に劇場を運営していくと、サイトラインの問題とかトイレの問題、オーケストラピット、搬入ということが、必ずつきものです。長中期修繕を考えながら計画をつくっていく、なかなか長中期修繕の計画というのは、計画そのものはあるのですが、財政的な裏づけがないというのが現実問題ですので、それを含めて計画を立てる、建設時から考えておいた方がいいというアドバイスだったと思います。

- ・ もう時間もなくなってきましたが、一言ずつでしたらと思いますが、何かありますでしょうか。

【立川委員】

- ・ どのように劇場を使うかという「求められる施設機能」のところについて、20ページです。ジャンルにバレエ、オペラ、上記以外の舞台芸術というのがありまして、横須賀芸術劇場、びわ湖ホールの説明にもありましたが、要するに、オーケストラだけの公演をどのように考えるか。オーケストラだけの公演を考えるとすると、何らかの反響板機能のようなものが必須になるのですけれども、それをこのプログラムの内容の中で年間に何回使う、どのぐらいオーケストラの公演が想定されるか、そのために反響板を造るかどうか、造るとすれば、どのような反響板を造るかというようなことは、結構大きな問題になるのではないかという気がします。

【本杉部会長】

- ・ 明石委員、お願いします。

【明石委員】

- ・ 部会長に質問するのが一番いいのかとも思うのですが、これ、造るときに一番基軸になるところが何かと思いました。これは舞台の地上面からの高さになりますか。つまり、この間、新国立を見せてもらって、奈落が舞台から30メートルぐらい下であって、上のところがまた30メートルあります。上下60メートルというと、建築基準法で言うと超高層になるのです。それだけの空間が要るのかと思ったのですが、この奈落を、例えば、掘らないと考えると、30メートルはマンションの10階の高さなんです。そこまでトラックを上げると。仰られたように、舞台の搬入口、ここが決まらないと、あるいは、ここが決まると、あと全部決まるかとも思いました。特に工事費に関してはそう思うのですが、それはどうでしょう。

【本杉部会長】

- ・ 舞台のレベルと搬入のレベルと奈落と、上の30メートルというのはすのこです。上に30メートル上がるということはありませんので、舞台のレベルをどのレベルに置く

かということで、普通考えると、グラウンドレベルからトラックがついて、1メートルぐらいのところには舞台レベルがあると。そのレベルに楽屋も連なってあるというのが原則的な計画になると思います。

- もしグラウンドレベルを、もっといろいろな人たちのための広場的に、あるいは商業施設として複合的にする場合は、そこで何か人々のための開放的な場所にする、あるいは、そこで収益を得るということになると、舞台を上げるか下げるかしかなくなるわけです。上げれば上げた分だけの、そこにどうやって荷物を運ぶかということになります。トラックで上げるという方法もありますし、実際やっているところもありますし、リフトで上げるという場合もあります。搬入口の場合、横須賀のようにグラウンドレベルで搬入口を造るやり方もありますし、1階を自由にするために地下に搬入して、地下から2階なり3階までエレベーターで上げるという方法もあります。エレベーターで上げるという場合もあり、横須賀のように舞台の迫りで上げようとする、舞台を組み立ててしまうともう搬入できなくなってしまいますので、独立した大きなエレベーターが必要になるということになります。札幌では、そういうやり方でやっています。ですから、そこまで下げるか、舞台レベルから少し上げるかという、一般的にはその3つのパターンです。それも何十メートル上げるとかではなく、数メートル上に行くか下に行くかという、地面に対して、それが普通ですね。それ以上の極端な例というのはあり得ないと思います。

【明石委員】

- 概算事業費、要するに、建築工事費は、これの場合には、結構断面の取り方で違ってくように思ったので、それでそこをしっかりとじめに固めた方がいいかと思いました。

【本杉部会長】

- あとは、奈落をどの程度設けるのか、設けないのかということが大きく費用に関わります。

【明石委員】

- それが大きいと思います。

【本杉部会長】

- ・ オーケストラピットは設けないわけにいかないのですが、あとはどうするかです。

【立川委員】

- ・ 新国立劇場の場合は、要するに、舞台のほぼ同じ空間の分、下に全部下ろせるような機構になっています。そうしていないところもたくさんあります。例えば、兵庫の芸術劇場は、奈落は機材の格納エリアになっていて、数メートル下りています。オーケストラピットが下りるプラスαぐらいです。そのように、あまり深く掘らないという考え方もあります。その分、例えば、床面積が増えるか増えないかですけれども、掘らないという考え方はもちろんあります。掘る深さを最低限にするということですが、全く掘らないわけにはいかないのですけれども、新国立劇場のように、舞台の空間そのものがすっぽり下に埋まる、その機構に格納するために、さらにその下を掘らなければいけない。だから、あれは多分40メートルぐらい掘っているのだと思いますけれども、そこまで掘らないという考え方ももちろんあります。予算的なこととか空間配置の考え方でそれを補っていくということももちろん十分考えられます。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。時間がちょうどになってきましたけれど、今までの中で何か事務局の方から補足的に何か話があればお願いします。

【事務局】

- ・ 先ほど、オーケストラを使うかどうかというお話がございました。実を言うと、今いる建物もそうなのですが、みなとみらいホールということで、ここが、いわゆるオーケストラの、ある意味では音響に徹底的にこだわったホールです。市としてはですね。みなとみらいホールの役割と新たな劇場の役割をどう考えるのかという中では、決めつけていいかどうか分かりませんが、位置づけとしては、こちら側の方でしっかりとしたオーケストラをやっていただく、今検討している劇場の方は舞台芸術というところで、オーケストラピットは当然必要になってくるかと思いますが、具体的にオーケストラそのものをしっかりと、単独の演奏をしっかりとやっていくようなことは、位置づけとして

はすみ分けようということで、今の新国立劇場も同じような考え方かと思えますけれども、位置づけとしてはそういう位置づけで考えていきたいと思っています。

【本杉部会長】

- ・ オークストラの演奏をオペラハウスやバレエの劇場でやってないわけではないので、どんな音響反射板を造るかということはあると思います。また、日本の中でも、札幌の場合は札幌のコンサートホールがあって、それとは別に、昨年か一昨年かオープンした新しい芸術劇場がありますが、大きなホールがありますけれども、そこには音響反射板があるということで、それでも使い分けをしていらっしゃるのでも、それらも参考にしながら、もう少し詰めて考えていただければと思います。
- ・ そのほかでありますでしょうか。お願いします。

【山中委員】

- ・ 29ページのところで、まず、単館かどうかという話で、館長として、お客様を、例えば地震とか火災とかで避難させるときのことを考えると、単館でよかったといつも思っています。やはりいろんな方面に避難させることができるので。
- ・ それと、整備手法のことで。P F Iですけれども、私は、運用面、運営ということではできないと思うのだけれど、例えば、建設と維持管理に絞ったP F Iのようなものもあり得るのではないかと思います。そのようにすると、後々の大規模改修だとか修繕費だとか、その辺が最初に組み込まれるので楽ではないかと思った次第です。

【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。今日は盛りだくさんでしたので議論が尽きてないのですけれども、時間が過ぎてしまいましたので、今日はこの辺で終わりにしたいと思います。
- ・ 今回は、ポストコロナにおける新たな劇場整備の検討の視点を踏まえた取組方針について議論をいただきました。概算整備費、整備手法について幅広い検討ができたと思います。まだ十分ではなかったかもしれませんが、ある程度の話合いができたのではないかと考えております。
- ・ また、新たな劇場に求められる施設計画についても、実際に施設の管理運営に携わる委員からも大変貴重な御意見をいただきました。今後の検討につながるとも重要な議

論になったと思います。

- ここで、次回に向けて、私の方から幾つか確認したいと思います。1つ目は、提言に向けて取りまとめる施設計画概要については、検討の1から5がありましたけれども、これについて多くは議論されませんでしたけれども、皆さんの大方の賛意があったと理解いたしました。今後、一定の方向性を示さなければなりませんので、またさらに議論は進むと思います。特に多面舞台については、立川委員からも話がありましたけれども、これまでの課題とか、最近の動きや今後の考え方、海外などの事例も参考にして、市からの資料などに基づいて検討を進めていきたいと思っています。それらを整理して、見解を我々の中で出したいと思っています。
- まだ検討に入っておりませんが、その中にありましたスマート劇場というような技術革新を踏まえた新しい技術の導入については、まだ我々の方でも分からないところがありますけれども、今後の社会において重要な要素だと思いますので、これについても具体的な検討ができるよう、資料を含めて、市の方からの提案もいただきたいと思っています。こうしたことについて次回の部会で議論できるように、市の方でさらに資料の準備をしていただければと、お願いいたします。
- 2つ目については、土地の問題です。負担の問題です。部会委員の皆さんも、事実関係については共有いただけたものと思います。今後とも、市当局の検討が進んだ段階で逐次御報告いただくということで我々の方も理解しましたし、市の方でもその旨で進めていただけるものと思います。よろしくお願いいたします。
- 3点目は、たくさんの意見がありましたので、これというわけにはいかないのですが、単館整備の話ですとか、それは概ね、皆さんその方がいいだろうという話でしたし、それから、ここに挙げられていた検討の視点とか、あるいは検討の内容について、御意見をいただきました。今回の資料をベースに、基本計画検討部会としてもさらに検討していきたいと思っていますので、これも含めて、市の方でさらに資料を整備していただいて、検討ができるような内容をもって、我々の方で検討を進めていきたいと思っています。
- 以上が私からの今日の取りまとめでございます。ちょっと散漫になりましたけれども、皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- では、全体を通じて、何か質問や御意見とかあれば、最後にお聞きしたいと思います。よろしいでしょうか。特にならなければ、私からいつものことですが、お願

いがございます。検討を進めるために、議論の参考になるような資料等があれば、ぜひ事務局の方に提供いただいて、材料にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

- ・ 私の方からは以上です。では、事務局の方に進行をお渡しします。よろしくお願いいたします。

【事務局】

- ・ 長時間の御審議、誠にありがとうございました。次回の部会の日程につきましては、今後調整させていただき、あらためて御連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
- ・ それでは、以上をもちまして、第2回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会を終了いたします。どうもありがとうございました。